

大都市のA大学病院に勤務する20歳代看護師の就職・離職に関する実態調査

key word 就職 離職 20歳代看護師 大都市 大学病院
15階東 ○禿小恵子

はじめに

都市部の先進医療を提供する病院は、看護師の離職率が高く、定着が悪いといわれている。実際、都心に立地するA大学病院は、臨床経験3年目までの看護師が全看護職員の半数を占めていて、毎年約150名を新採用している。しかし安全で質の高い医療・看護を提供するためには、それを担う人員を十分配置することが必要である。

I 研究目的

大都市のA大学病院で働く、20歳代看護師の就職・離職に関する特徴を明らかにする目的で実態調査を行い、看護師確保のための検討資料とする。

II 研究方法

対象者 : A大学病院に勤務する20歳代看護師556名
(回収率82%) 有効回答率98%

調査期間:平成17年12月12日~平成17年12月20日

調査方法:留置質問紙調査(自作質問紙)

分析方法:SPSS12.0 Jを用い、 χ^2 検定を行った。

III 倫理的配慮

質問紙調査に対して、協力者の氏名は匿名で記載すること、研究の結果は集散的に処理され、個人のプライバシーが公表されることはないこと、研究以外にはデータを使用しないこと、研究への協力が得られなくても、なんら不利益はないこと等を説明する。また研究内容、調査実施、研究結果の公表に関してはA大学病院看護部の承認を得た。

IV 結果

1. 対象者の背景

有効回答数446名のうち女性が431名(96.6%)、男性が15名(3.4%)であった。

平均年齢は24.9歳、(標準偏差2.17)、423名(94.8%)が未婚であった。

出身地は284名(63.3%)が関東地方であった。看護基礎教育における最終学歴は335名(75.1%)が専門学校卒業、63名(14.1%)が短期大学卒業、48名(10.7%)が大学卒業であった。

A大学病院での経験年数は3.12年(標準偏差1.82)であった。

2. 職業選択動機

看護師を職業に選んだ理由は(複数回答)、「一

生働くことのできる職業(224名)」、「専門的知識・技術の取得(220名)」、「やりがいのある職業(215名)」、「経済的安定(202名)」、「国家資格の取得(165名)」、「あこがれ(139名)」、「人の世話が好き(106名)」、「親や身内に看護師がいて身近な存在であった(63名)」、「社会への貢献(53名)」、「なんとなく(39名)」であった。

3. 大都市の大学病院で働く意味

大都市の大学病院に就職した理由は(複数回答)、「体力のある若いうちに高度な技術を身につけたい(302名)」、「最新で質の高い医療と看護を行っている(196名)」、「大病院を経験すればどこに行ってもやっていけるという自信がもてる(170名)」、「様々な患者をみる機会や広く包括的な知識が得られる(164名)」、「院内研修の充実(111名)」、「大病院の経歴は他の病院に移る時や転職の時に有利(102名)」、「院外研修や進学など教育を受けるチャンスが多い(54名)」、「給料がよい(48名)」、「福利厚生の実(43名)」、「労働条件がよい(36名)」、「高度救命救急のような部署で活躍したい(34名)」であった。

4. 仕事に対する将来の展望

仕事に対する将来の展望は(複数回答)、「規模の小さい病院やクリニックへの就職(195名)」、「看護職以外の仕事に就きたい(107名)」、「夜勤のない仕事に就きたい(92名)」、「訪問看護など地域で働きたい(67名)」、「成り行きに任せたい(64名)」、「A病院の他部署に異動し新しい事を学びたい(59名)」、「認定看護師など高度専門職業人として働きたい(55名)」、「故郷で看護職を継続(53名)」、「海外への留学(53名)」、「国際医療ボランティアへの参加(34名)」、「保健師・助産師学校への進学(33名)」、「他大学病院への就職(28名)」、「大学や大学院への進学(27名)」、「あまり考えたことがない(20名)」、「教員や研究職に就きたい(16名)」、「管理職者として働きたい(2名)」であった。

5. 仕事をやめたいと感じた経験

仕事をやめたいと感じる理由は、「毎日忙しく疲労が蓄積する(83名)」、「仕事量が多く満足のいく看護ができない(65名)」、「上司との人間関係が悪い(50名)」であった。毎日忙しく疲労が蓄積すると答えた83名のうち24歳以下の看護師が52名、25歳以上の看護師が31名で有意差が認められた。(表1)

6. 就職先の病院を選ぶ時重視する条件

就職先の病院を選ぶ時重視する条件は、「人間関係など組織の雰囲気がよい(107名)」、「給料が高い(91名)」、「勤務体制が自分の生活にあっている(71名)」であった。人間関係など組織の雰囲気がよいについては、107名のうち24歳以下の看護師が67名、25歳以上の看護師が40名で有意差が認められた。(表2)

7. 入職時点での予定勤続年数

予定勤続年数を231名(52.1%)が3年、110名(24.8%)が4～5年、75名(16.9%)が決めていなかった、13名(2.9%)が2年と考えていた。

8. 退職理由

平成18年度退職予定者は126名であり、退職理由は(複数回答)「リフレッシュのため(41名)」、「生活を変えたい(38名)」、「他の医療機関への就職やその準備(29名)」、「疲労、体調不良(22名)」、「故郷・実家に戻る(18名)」、「進学(15名)」、「結婚(14名)」、「夜勤のない仕事に就く(14名)」、「仕事に自信がない(11名)」、「仕事に失望(11名)」、「看護職以外の就職希望(10名)」、「出産・育児(5名)」であった。

他の医療機関への就職やその準備を退職理由にあげた29名のうち、記入のあった20名の希望する医療機関は「総合病院(3名)」、「市民病院(2名)」、「規模の小さい病院(2名)」、「クリニック(2名)」、「産業保健・市町村の保健機関(1名)」、「ホスピス(2名)」、「老人病院(1名)」、「心臓専門病院(1名)」、「小児専門病院(1名)」、「大学病院(2名)」、「大学病院0名)」、「未定(2名)」であった。

V 考察

平井が「職業の安定性や定着性を志向する姿勢より挑戦的でやりがいのあることを志向する姿勢は、都市型の大学病院に就職を希望する看護師に顕著に現れるようだ。」¹⁾と述べているように、大都市の大学病院に勤務する20歳代看護師の就職理由は、体力のある若いうちに高度な技術を身につけたい、大病院を経験すればどこでもやっていける自信が持てるなど意欲的である。しかし仕事に対する将来展望は、小規模病院で夜勤のない仕事に就きたい、看護師以外の仕事に就きたいなど、消極的回答が多い。自己成長のために選択し

た職場であるが、仕事に疲れキャリアアップもままならない状況にある。さらに職業継続意思は強いが、仕事に対する疲労から一度生活をリセットするために離職し、その後なんらかの形で看護職を継続したいと思っている。

入職時点で半数の看護師が3年を予定勤続年数と決めている。今回、3年という期間についての理由は明確にすることができなかった。

24歳以下の看護師は、仕事で疲労を強く感じる傾向があり、人間関係など職場の雰囲気がよいことが選定病院の重要条件であると感じている。24歳以下、即ち経験3年目以下の看護師は、知識・技術が未熟で人に教わることが多い新人時代から一人前に成長していく過程にあり、大部分の事を自分で解決し、リーダーシップがとれる25歳以上の看護師に比べ、仕事に疲労を強く感じる傾向があると考えられる。また人間関係の良し悪しが指導・教育効果を上げるポイントであり24歳以下の看護師により重視されている理由であると思われる。

20歳代の看護師が、A大学病院で仕事を継続していくためには、労働条件の改善、看護体制や看護業務の見直し、そして人間関係など組織風土を良好に保つための取り組みが欠かせない。

VI 結論

1. 大都市の大学病院に勤務する20歳代看護師の就職時には積極的な理由がある。
2. 疲労蓄積がキャリアアップの障害となっている。
3. 就職時点で予定勤続年数を3年と決めている看護師が約半数いる。
4. 24歳以下の看護師は25歳以上の看護師に比べ仕事に疲労を強く感じる傾向があるさらに職場の人間関係を重視している。

引用文献

- 1) 平井さよこ. 看護職のキャリア開発—変革期のヒューマンリソースマネジメント. 東京, 日本看護協会出版会, p.83-84, 2005.

本研究は2006年10月、第37回日本看護学会(看護管理)において発表したものである。

表1 仕事をやめたいと感じた理由 n = 446

理由	21～24歳	25～29歳	計
毎日忙しく疲労が蓄積する	*52	31	83
仕事量が多く満足のいく看護ができないと感じる	26	39	65
上司との人間関係が悪い	22	28	50
所属部署の知識や技術不足を認識する	19	11	30
医療事故を起こさないか不安を感じる	9	14	23
給料に対して自分の仕事が評価されていない	8	12	20
ヒヤリハット報告書の記入	13	7	20
同僚との人間関係が悪い	10	7	17
重症者の受け持ちや急変患者への対応	11	4	15
超過勤務が多い	7	7	14
時間外の勉強会や会議への参加	3	10	13
リーダ業務をまかされる立場になった	2	10	12
患者・家族とのトラブル	3	8	11
不規則な勤務	5	5	10
煩雑な仕事が多い	2	5	7
体調不良でも人員不足のため我慢して勤務する	1	5	6
同期の看護師が退職する	1	5	6
患者の死	4	1	5
医師との人間関係が悪い	1	3	4
休暇取得が希望どおりできない	1	3	4
プリセプタ・プリセプティとの人間関係が悪い	2	1	3
夜勤業務	0	3	3
後輩の指導	1	1	2
看護研究や発表	0	2	2
その他	2	9	11
不明	5	5	10

* P < 0.05

表2 就職先の病院を選ぶ時重視する条件 n = 446

条件	21～24歳	25～29歳	計
人間関係など組織の雰囲気がよい	*67	40	107
給料が高い	48	43	91
勤務体制が自分の生活にあっている	25	46	71
医療や看護の水準が高い	18	47	65
病院のイメージがよい	11	8	19
超過勤務が少ない	9	8	17
通勤に便利である	3	14	17
病院施設がきれい	3	8	11
休日が希望どおり取れる	4	6	10
病院の知名度が高い	5	3	8
病院の立地条件がいい	2	4	6
福利厚生が充実している	2	3	5
職員の教育に熱心である	2	2	4
大学病院である	2	1	3
病院の規模が大きい	2	0	2
実力で昇進が決まる	1	0	1
大学卒業者を多く採用している	1	0	1
その他	1	3	4
不明	2	2	4

* P < 0.05